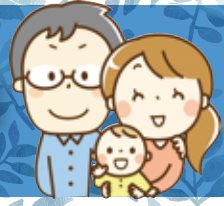


待機児童の解消には 保育所の増設や定員増だけでなく 多様な施策で取り組むべきです!



【従来の待機児童対策だけでは変わらない】

これまでの待機児童解消策は、保育所の増設や定員増、保育ママの導入など、「保育を受けられる子どもの数を増やす」ことに主眼をおいてきました。しかし、結果として一旦数を減らすことはできても、完全に解消することはできていません



【従来の待機児童対策だけでは変わらない】

子育てが家庭が、なぜ子どもを保育所に入れたいのか、その理由を分析し、「保育所に入れる」という選択肢以外の方法も選べる、多様な子育て支援策を提示して、待機児童の解消につなげることが急務であると考えます

【こんな施策も検討できます!】

現在、区立保育園の、園児一人あたりの保育に要する経費は平均月額約17万円(年額約210万円)ですが0歳児では

月額約51万円(年額約615万円)です

例えば、経済的な理由で0歳児を保育所に預けているけれども、可能ならば、家庭で子育てをしたいと希望する世帯に対し

・平均的な育児費(ミルクやおむつなど)月額約2万円

・30代女性の平均月収約25万円の7割の月額約18万円

合計子ども一人当たり月額約20万円程度の公的助成をした場合、保育所での保育経費に比べ、公費の支出は半分以下となり、

同時に希望する形での子育てが可能になり、「待機児童」もひとり減ることになります。



親と子どもがともに過ごせる時間は、意外と短いもの。一番大切なことは何かもう一度、考えてみませんか



議会運営委員会 委員

常任委員会 区民生活委員会 副委員長

特別委員会 総合・災害対策等特別委員会 委員

各種委員会 民生委員推薦会、土地開発公社評議員会

ご相談は… 関口かずお 事務所

〒176-0021 練馬区貫井 3-53-8

Tel / Fax : 3998-1752 HP : <http://www.k-sekiguchi.jp/>



関口 かずお

練馬区議会議員 第五十九代議長 副幹事長

私にとってのファーストは・・・

今年、春、中学を卒業した孫と、初めてふたりで旅をした。目的地のひとつは、私が、学生時代に大変お世話になり、影響を受けた薬師寺。日程が花会式に当たるので、ぜひ見せたいとおもったのだ。村上太胤管主にもお会いし昔話をしていると、管主が急に、おじいさんが結んでくれたご縁なのだから、法要期間、薬師寺に泊まって、奉仕活動に参加してはどうかと、孫に勧めはじめた。本来は高校生以上が参加するのだが、高校生になるのだから特別に許可しようと言われ、さあ、どう答えるかとおもっていたら、「よろしくお願ひします」と一言。少し驚いたが、それから二日間、薬師寺での花会式とお寺での生活を体験し、ひとり新幹線に乗って戻ってきた。どうしているだろうか。少々気をもんでいたが、帰ってきた時の表情や、その後の雰囲気、これまでも少し違っているような、彼の中で何かが、ちよつと変わったのかもしれない、そうおもった。自分で選んだ高校に進み、幼いころからの夢に向かう孫の横顔は、最近、時にとても、大人びて見える。

昨年来、政治の世界では「変える」という言葉が、キーワードになっているようにおもう。都知事を始めとして、様々な政治家が、議会や行政のあり方を「変える」という。しかし、私には、この「変える」という言葉が、少々傲慢であるようにおもえてならない。時代や社会が変化していく中であって、議会や行政、議員や施策も変わっていくのは当然であり、また、変わらなければならぬものである。しかし、今言われている「変える」は、今の議会や行政を、古いもの、変えるべきものとして対峙し、自分たちのやり方こそが正義であると述べるための、方便であるように感じる。もちろん、我が自民党にも、練馬区議会にも、練馬区政にも、変えるべき所は多々あるとおもふ。しかし、何もかも変えればよい訳でもない。むしろ私を含めた、議員一人ひとりの意識、行政に携わる職員一人ひとりの意識が、ほんの少しでいい、「変わる」ことの方が、議会や政治を、後々大きく「変える」きっかけになるのではないか。時に、大ナタを振るう必要があることもまた、事実ではあるのだけれど。

人が「変わる」きっかけは様々である。孫にとって、薬師寺との出会いがそれであったなら、祖父名前に尽きる。そしてもうひとつ、彼に贈る言葉は、「心変わりだけはせず、前に進め」である。



今年、春、中学を卒業した孫と、初めてふたりで旅をした。目的地のひとつは、私が、学生時代に大変お世話になり、影響を受けた薬師寺。日程が花会式に当たるので、ぜひ見せたいとおもったのだ。村上太胤管主にもお会いし昔話をしていると、管主が急に、おじいさんが結んでくれたご縁なのだから、法要期間、薬師寺に泊まって、奉仕活動に参加してはどうかと、孫に勧めはじめた。本来は高校生以上が参加するのだが、高校生になるのだから特別に許可しようと言われ、さあ、どう答えるかとおもっていたら、「よろしくお願ひします」と一言。少し驚いたが、それから二日間、薬師寺での花会式とお寺での生活を体験し、ひとり新幹線に乗って戻ってきた。どうしているだろうか。少々気をもんでいたが、帰ってきた時の表情や、その後の雰囲気、これまでも少し違っているような、彼の中で何かが、ちよつと変わったのかもしれない、そうおもった。自分で選んだ高校に進み、幼いころからの夢に向かう孫の横顔は、最近、時にとても、大人びて見える。